

挑む!

映画監督・脚本家

永井 和男さん(26)

純な思いが 役者を動かす

「くさいけど『愛してる』」

こんな衝撃的なタイトルの短編映画

が初監督作品だ。主人公は、恋人の強

烈な口臭に悩む青年。本人に伝えられ

ずに悩んだあげく、歯科医から口臭を

測る装置を借りるのだが……。作品の

下敷きになったのは、中学の友人の

話。「口がくさい相手を好きになっ

て、付き合う。これってすごい純愛な

んちゃう、て思い出した」

もとから映画監督志望だったわけで

はない。大学では物理を専攻。一方



大阪市出身。「くさいけど」は、英語字幕版「Smell, But I Love You」がAmazonビデオなどで配信中。日本語版も近日配信予定。

で、昔から好きだったテレビの世界にもひかれていた。留年が決まり、シナリオ教室に通ったのがきっかけになった。「限られた人生、面白いものを作り出すことにかきたい」

「くさいけど」の脚本を20回以上書き直し、教室の仲間と機材の説明書を読みながら24分間の作品に仕上げた。

40以上の映画祭に応募。「したまちコメディ大賞」をはじめ半分近くで入選した。「ねりこまれた芝居に思わず笑

ってしまう」などと評価された。

昨年は10本以上の映画にスタッフとして携わった。今年3月には、俳優を集めたワークショップを大阪で主催した。今、母と娘をテーマにした次回作

に取りかかっている。「役者が人として感情を持ち、そこに生きている瞬間

を撮りたい」

文・尾崎千裕 写真・滝沢美穂子

記者から

「自分の熱量が役者やスタッフを動かす」ときっぱり。新作で新たな風を吹かせてほしい。